

取材に参加した動機はアンパンマンです

幼児にとってはレオマワールドより魅力的！

fuchinkanの娘（姉）

本誌の新鋭記者、fuchinkanの娘（姉）でえす。
ピチピチの3歳6ヶ月でえす。よろしくね。

パパの話だと、WOOには若い女の子というだけで寄ってくる可愛いおじさんがいるということなので、生まれる前から警戒が必要です。

今回の取材のメンバーがふじいとSさんと聞いてまずは安心です。

ただ大事な日曜日をつぶしてまで参加する価値があるのか直前まで悩みました。でも二つの理由で参加することに決めました。

二つとも大好きなアンパンマンがらみです。

みんなはアンパンマンの作者、ジャムおじさ…じゃなくて「やなせたかし」さんの出身地を知ってますか？

高知県なんです。アンパンマンファンにとってメッカと言える「アンパンマンミュージアム」もあるんですよ。

アンパンマンの人気に目を付けたJR四国は岡山から高知行きの特急「南風」の一部をアンパンマン列車に仕立てました。今回の取材は高知の手前、琴平です。

もしかしたらアンパンマン列車に乗れるかもしれない…、私の小さな胸は期待でいっぱいになりました。これが一つめの理由。

もう一つの理由は、取材の前の日にやっていたTVの「もぐもぐいーと」です。この番組の中で四国の名物駅弁が取り上げられていたのですが、ここで私は「アンパンマン弁当」の存在を知りました。



これは、もう！行くしかない！そう思いました。
私は幼児ですので切符を買わなくても列車に乗れます
(パパがいればね)。パパの負担も小さいはずです。



こだま号を岡山駅で降りました。
わくわくしながら在来線ホームへ。
いた！
いました。
青色のアンパンマン列車です。
前面、側面すべてアンパンマン一色。



車内もアンパンマン一色。とくに天井の端から端まで、ま
るで屏風画のように
描かれたアンパンマンのキャラクターにはうっとり。

ばいきんマンやドキンちゃんをはじめ、大好きなロール
パンナやあかちゃんマン、そしてミルク坊やなんていうマ
イナーキャラも描かれていて、天井から目が離せません。
首が痛くなるまで見入ってしまいました。



もう一つの目的、アンパンマン弁当は残念ながら売って
いませんでしたが、アンパンマン列車での至福のひととき
を過ごせただけで、今回の取材に参加して良かった、と思
えるものでした。たのしかった～！

